

ディーセント・ワーク(Decent Work)をめざして

——社会で働くことの意義を考える——

株式会社 開倫塾
代表取締役 社長 林 明夫
(社団法人 経済同友会)

Q: 人間は、何のために働くのですか。働くことの意義は何ですか。

A: (林明夫: 以下省略) 「生活できるだけの収入を得ること」と同時に、「自己実現をすること」であると私は考えます。

皆さんは、「ディーセント・ワーク」ということばをご存知ですか。英語で decent(ディーセント)とは、「見苦しくない、上品な、かなり(りっぱ)な、寛大な、親切な」という意味です。

〔 *参考までに、形容詞 decent の名詞形は decency で「礼儀(正しさ)、上品さ、寛大、親切」の意味があり、decency の複数形 decencies は「礼儀作法、見苦しくない生活状況」を意味します。 〕

この decent(ディーセント)に work(ワーク)をつけたのが、decent work(ディーセント・ワーク)ということばです。

Q: 何ですか。その「ディーセント・ワーク」というのは。

A: 国際連合の一機関である ILO(International Labor Organization インターナショナル・レイバー・オーガニゼーション世界労働機関)の事務局長のジュアン・ソマビア(Mr. Juan Somavia)という人が、1999年に就任した際に、ILOのこれからの理念・活動目標として示したのが「ディーセント・ワーク」です。

「ディーセント・ワーク」とは何か。このことばからは、いろいろな意味が考えられます。たとえば、「きちんとした仕事」、「働く価値のある仕事」、「適正な仕事」、「人間らしい仕事」、「尊厳ある仕事」、「人間としての尊厳を保つ仕事」、などなどです。

堀内光子 ILO 駐日代表は、ディーセント・ワークを「働く人の権利が確保され、社会保護が保障され、労使対話のある仕事。いってみれば、人間らしく安心して働ける仕事」と説明しています。

私は、この ILO の示した「ディーセント・ワーク」ということばを参考にして、働くことの意義、意味を「生活できるだけの収入を得ること」と「自己実現をすること」と考えました。

Q: 「仕事」というものは、社会で役に立つのですか。

A: ある人が自分の仕事だと考え行っていることでも、法令に反したり、倫理に反するものは、社会で役に立たないと考えられます。

しかし、法令に反しないこと、倫理に反しないことであるなら、ほとんどの仕事は社会で役に立つものばかりだと考えられます。

Q：社会で役に立つ仕事とは、どのようなものですか。

A：「仕事」は、お客様のために「製品(もの)をつくること」と、お客様に「サービスを提供すること」の2つに分けられます。

「製品(もの)をつくること」、「サービスを提供すること」のどちらも、お客様にとって「問題解決」になっていなければ仕事とは言えず、仕事の「対価」として「生活できるだけの収入を得る」ことはできません。

また、いくら「製品(もの)」をつくり「サービス」を提供してお客様の「問題解決」になっても、「価格(値段)」が高すぎたり、不便な「場所」で提供されたりしたのでは、お客様は受け取ったり利用したりすることができません。さらに、製品やサービスの販売促進や PR、つまりお客様とのコミュニケーションが不十分であると、お客様にそのよさ(価値)を知ってもらうことができず、せっかくつくったものや用意したサービスを買ってもらえません。

つまり、お客様が抱えている「問題解決」になるような「製品やサービス」を、お客様が買うことのできる手ごろな「価格」で、利用しやすい便利な場所で提供し、そのよさ(価値)をお客様とのコミュニケーションで十分知ってもらい、お客様のお役に立つ、その結果はじめて「生活できるだけの収入を得ること」ができるといえます。

Q：「生活できるだけの収入を得る」ことは、世の中の役に立つことだと考えればよいのですね。

A：その通りです。だからこそ、「仕事」は収入を得るだけではなく人生の貴重な時間の一部を注ぎ込むに値するものであると私は思います。

先ほど、「ディーセント・ワーク」の意味として、「働く価値のある仕事」と紹介しましたが、「働く価値がある仕事」であるからこそ「仕事を通して自己実現」できる、つまり「その仕事に人生を懸けて打ち込める」といえます。

私は、「一つの所に命を懸ける」くらい熱心にものごとを行うという意味での「一所懸命」ということばが好きです。1つ1つの仕事の「社会的使命(mission, ミッション)」、つまり社会における自分の仕事の意味・大事さが分かれば分かるほど、自分の人生の貴重な一部をそのために使いたいと思うようになりました。これが、仕事を通しての「自己実現」です。

Q：仕事をして得た喜びはありますか。やりがいがありますか。

A：私が現在行っているのは、「企業の経営者としての仕事」と「社会的な活動」の2つです。どちらも、「企業としての社会的な使命(mission, ミッション)」や社会的な活動としての「社会的な使命(mission, ミッション)」を少しでも果たすことができたときには、喜びがあり、やりがいを感じます。

Q：仕事をしていて失敗はありますか。

A：あとで考えれば、毎日が失敗の連続のような気がします。ああすれば、もっとよりよくできたのにとと思うことばかりです。小学生の時に、一日の終わりに反省会というものがありました。今でも毎日が反省会の連続です。

ただ、仕事の上での失敗は一回は許されても二回は許されません。同じような失敗をしないように失敗から教訓を学び取るようにしています。

仕事の上で事前に入念な「段取り」、つまり準備を丹念に行っておけば、失敗する確率はかなり減ります。複雑なものほど、仕事の順序(process プロセス、手順)を抜かりなく考えるようにして

います。

また、大事な問題ほど「耳に痛いことを言ってくれる人ほど尊い人だ」と考えるようにしています。スタッフには、どこに問題があるのか、その原因は何だと推定されるのか、緊急措置としてとりあえずどうすればよいのか、ゆくゆくはどのようにシステムを改革したらよいのかなどを、できるだけ具体的に、そして自由に発言してもらおうようにしています。

「問題点を先送りにしない」ことが大事なので、タブーなしで自由に発言してもらってから、最高責任者が私の場合には自分の責任で一人で決定を下します。

ただ、私の考えた決定と異なる考え方をする人が一人でもいる場合には、私が決定に到ったプロセス(process, 過程)をできるだけ具体的に分かりやすく説明し、理解した上で協力してもらえるように努力しています。これを「説明責任(accountability, アカウンタビリティ)」といいます。

Q：仕事や活動をする上での、今後の課題は何ですか。

A：「人口減少」と「国際化」、「IT化」の3つです。

少子化、高齢化の進む日本は、人口が減り始める「人口減少」の社会に突入しました。

FTA(Free Trade Agreement フリー・トレード・アグリーメント 自由貿易協定)や EPA (Economic Partnership Agreement エコノミック・パートナーシップ・アグリーメント 経済連携協定)などが、これから多くの国々と日本との間で締結されますので、人の動き、ものやサービスの動き、お金の動きが今まで以上に自由になり、「国際化」が進みます。

IT を中心にした通信技術が数 10 倍単位、いやそれ以上の単位でどんどん進歩し、「IT化」がとめどなく進んでいきます。

Q：世の中の動きと仕事の内容は関係があるのですか。

A：仕事も社会的活動も世の中の動きに合わせて内容を変えていかなければ、何の役にも立たなくなる場合がほとんどですので、大いに関係があります。

世の中の動きを見誤って、昨日のように今日があり、今日のように明日があると考え、十年一日の如(ごと)く仕事のやり方を全く変えずにいると、お客様はどんどん減っていき、「生活できるだけの収入」を得ることが難しくなる場合が多いようです。企業であれば、倒産する場合があります。

Q：進路を考えるにあたって、中学校、高等学校時代にしておくべきことは何ですか。

A：本日、私の話をお聴き下さっている皆様方の大部分は、高校卒業後に4年制の大学に進学なさると思います。

そうであるなら、大学に進学しても困らないだけの基礎的な学力を、中学校、高校時代に身につけておくことをおすすめします。

一番のおすすめは、興味や関心のある科目あるいは得意科目は、遠慮なく好きなだけ勉強することです。学年に関係なく、知りたいという欲求つまり「知的な欲求」があったら、中学生であっても高校生の内容にまで、高校生であっても大学生や大学院生の内容にまで踏み込んで、どんどん自分の力で先へ先へと勉強なさることをおすすめします。

だからといって、タウリンを入手して動物や人体に実験するなどといった法令違反、倫理に反する行いだけは絶対にしないこと。作ることができるからといって、爆弾を作ったり、それを実際に使用することは、厳に戒めるべきことです。

Q：興味のもてない科目や、不得意科目はどうしたらよいのですか。

A：大学センター入試や、二次試験に合格できるだけの力はどんなことがあっても身につけるべきです。

これに加えて、自分が進学したい学部をできるだけ早く決めて、その学部で勉強するのに必要な中学、高校の科目は抜かりなく勉強しておくことをおすすめします。

例えば、地域環境の勉強を大学でしたいのなら、生物、化学、物理だけでなく地学も必要です。大学入試科目としてとらなくても、高校で地学の授業があったら必ず履修して下さい。地学の授業がなければやさしい高校生用の参考書を自分で買い、高校1年生のうちから勉強することです。中学生のうちから勉強してもよいのですよ。勉強に遠慮は要りません。

Q：学習の成果をあげるには、どうしたらよいですか。

A：教育の成果は「本人の自覚」と「教え手、つまり先生の力量」によって決定されると私は考えます。「自覚」をもって勉強するとは何か。何のために勉強するのかといった人生の目的や、何のためにこの学校で勉強するのかなど少し大きめの目的を考えたり、今年の目標、今学期の目標など身近な目標を考えた上で、毎日の授業を中心にすえ、豆テスト(確認テスト)、単元テスト、定期テスト、実力テストなどでよい点数をめざし勉強をつみ重ねること、つまり目標をもって勉強することだと考えます。

また、いくらよい先生に教えて頂いても、漫然と授業を受けているだけでは学習の成果は上がりません。「自分で勉強する能力」つまり「自己学習能力」を身につける必要があります。

予習の仕方、授業の受け方、復習の仕方、ノートブックの作り方、暗記の仕方、様々なテストの受け方、本や雑誌、新聞の読み方、分からないことの調べ方、インターネットの活用の仕方、レポートの書き方、報告の仕方などなど、どのように自分自身の力で勉強に取り組んだらよいのか、図書館、博物館、美術館、研究所の活用の方法、旅行や一人での生活の仕方などを自分で考えることが、「自己学習能力の育成」です。

中学校、高等学校で勉強している間に、大学で、あるいは社会に出てからも使用可能な、さらに言えば、死ぬ寸前まで一生涯使える自己学習能力を少しずつ身につけることを心掛けて下さい。

Q：「自己学習能力を育てる」には、どうしたらよいのですか。

A：「ドラゴン桜」を読むことも役には立ちますが、毎日の授業での先生方のお話をよく聴いていると、「このように勉強するといいかもしれないよ」と時々お話になることに気付かれると思います。

また、学校での先生の話に限らず、ご家族との会話やTVの番組、新聞や雑誌、本などによく注意を払っていると、効果の上がる勉強方法を教えてくれていることがよくあることにお気づきになると思います。

お気に入りの方法があったら、ノートブックに必ずメモを取り続け、何回も何回も読み直し、それを実践してみることをおすすめします。

その人の一生を描いた「伝記」にも、素晴らしい勉強の仕方が随分と紹介されています。伝記として広く読まれるような人は、よほど努力して勉強を積み重ねた人が多いと思われるので、勉強の量ややり方も人並みではないことが判ります。

慶應義塾大学の創始者である福沢諭吉の自叙伝「福扇自伝」はおすすめです。内村鑑三の「代表的日本人(岩波文庫)」もおすすめ。伝記ではありませんが、世阿弥(ぜあみ)の「花伝書」や宮本武蔵の「五輪書」なども、「自己学習能力の育成」という点からみると面白いと思います。

Q：その他、中学生、高校生のうちに身につけておいた方がよいことはありますか。

A：まだまだたくさんあります。

第1は、躰(しつけ)です。「躰」とは「美しい立ち居振る舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」を内容とします。

第2は、「新聞を読んで考える」習慣です。私は、小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は60分以上、新聞を読んで考える習慣を身につけることをおすすめしています。

第3は、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。学校での勉強に加えて、実用英語検定の2級を早く取ること。2級が取れたら日本語の新聞を毎日1時間読み、よく内容が分かっているところだけでよいので英字新聞(はじめはDaily Yomiuriくらいがよい)を毎日1時間、辞書を引かずに読む習慣を一日も早く身につけるとよいと考えます。

第4は、ITを使いこなせることです。コンピュータによるコミュニケーション能力を身につけておくとい良いでしょう。

第5は、朝起きてから夜寝るまで自分一人で生活できる能力を身につけておくことです。心と体の健康を維持しつつ、収入の範囲内で支出をし、一人で独立して生活できることは、とても大切な能力です。

Q：夢や目標をもつことについて考えをおきかせ下さい。

A：私は、この日本という国は素晴らしい国だと思います。なぜなら、平均寿命が80歳以上と、世界で一番の長寿国、長く生きながらえることのできる国になったからです。

おそらく皆様の時代には、「自己管理」の能力さえしっかり身につければ、多くの方が100歳以上まで生存可能になると思います。

そこで、皆様は、せっかくこの世界一の長寿国にお生まれになり、また生活なさっているのですから、自分に最もふさわしい「自己管理能力」を少しずつでも身につけて、もう85年以上、つまり100歳以上までこの世の中に生きる努力をなされるようお願いいたします。せっかく100歳以上まで生きられるのなら、自分なりの夢や希望、目標をおもちになり、もう85年間、100歳以上まで生きられた方が面白いと考えるからです。

是非、夢や希望、自分なりの目標をおもちになって、生き生きと自分らしく生き続けることを希望します。

私の好きなことばの一つに、“If you can dream, you can do it!”があります。このことばは、アメリカのヒューストンの宇宙技術者の皆さんの合い言葉で、このことばをたよりに人類を月面に立たせたと伝えられているものです。「昨日のように今日があって、今日のように明日があればよい」と思っていると、「明後日(あさって)」はどうなるか分からないのが、動きの激しい現代社会です。

自分自身の夢や目標をたとえどんなことでもよいから具体的におもちになり、それに向かって一歩でも先に歩み続ける。困難なことほど、はっきりとした目標をもたない限り達成することは不可能です。夢をみることができない限り、何となくでは夢は達成できません。ただ何となくでは、たとえ達成できたとしてもそのことの有難さが分かりませんから、すぐに無くなってしまい、空しさだけが残ることになります。夢や目標に向かって努力を積み重ねてはじめて、達成感や充実感を味わうことができます。生き生きと生きることができます。

100歳までのもう85年間を、どう生き生きと生き抜くか、是非真剣になってお考え下さい。

Q：社会の変化に応じて求められる能力(人材)とは、どのようなものですか。

A：これからの社会は、人口減少、国際化、IT化を背景にもつ「知識社会(Knowledge Society)」です。社会の変化のスピードは著しく速いので、その変化を先取りして自らの使命(mission, ミッション)を果たし続けていける能力(人材)が求められます。具体的には、「知識社会」に対応するために、それまでの基礎知識をもとに一生涯に渡って「勉強し続けることのできる人」をめざすべきです。

ドラッカー先生は、「教育ある人(Educated Person)」とは「勉強し続ける人」であるとおっしゃいました。私は、「自分の夢や目標に向かって、自分なりの勉強方法で死ぬ前日まで勉強し続ける人」が「教育ある人」であると考えます。そのような意味での「教育ある人」になりたいと密かに思っております。

私の近所にお住まいになっておられた相田みつを先生の書に、「一生勉強、一生青春」があります。

「一生勉強、一生青春」

最後に、皆様とともに相田先生のことばを心に刻み、今日の私の話とさせていただきます。

御清聴いただきありがとうございました。心から感謝申し上げます。

以上

- 1月23日記 -